

第3回会議の開催結果

1 議事要旨

県は税率一律150円となる方針を固めつつあり、税収42億円のうち市町村への分配が11億程度になる見込みである。それがどのような方式で分配されるのか明確になっていないので、その動向を見据えていくこととした。

県の動向を見据えていくだけでなく、そもそも150円ありきで進めている事自体が納得いかないという意見があるため、近隣市町と連携しながら、もう少し違った方策がありえないか、また、県が一律的な分配をするのではなく、地域の実情を踏まえ傾斜配分を検討するよう、県へ引き続き働きかけを行っていく。

市の税収としては、大体5,000万円ぐらい確保できなければ必要な事業ができないことを念頭に置きながら、上乘せも含め制度設計を改めて検討していく。

次回は12月開催予定だったが、県の動向を見定めるまで延期し、その間、宿泊事業者へ丁寧な説明を行っていくことが必要であるとした。

2 各委員の意見

●使途の検討について

おおむね賛同できる

- ・花畑の再生を含めホットスポットを情報発信していくという形になっており、非常にわかりやすい。
- ・現時点では素晴らしい使途だと考えている。花畑の再生は収益を出しそれを次年度に使えるように考えてほしい。
- ・アンケート結果に基づいた使途案だと思う。花畑の再生だけでなく「食」に関しても高い割合を占めているので、漁業の磯焼け対策についても収益を上げる形で取り入れてほしい。
- ・使途の明確化で「花畑の再生」は、お客様へ説明しやすい。花畑再生、フォトスポットの創出、情報発信、これらを回していくことによって観光客が増えるということを期待している。

追加提案

- ・スポーツ教育についても体育館が足りないという声を聞いている。体育館を作ることも

必要ではないか。

- ・バス代補助については宿泊事業者にとっては得だが、子供たちや学生たちにとっては宿泊税を払わない方が得になる。そうではなく、自然環境とか SDGs に対して使うとなれば、宿泊事業者は営業のためのツールとして使えるし、子供たちにとっても得となる。

方向性

- ・そもそも宿泊税は宿泊事業者に利益をもたらす税金であるべきだ。従前たる予算を減らすべきではない。
 - ・宿泊税の部分だけを切り取って示していくのではなく、観光全体の予算や事業を示し、それでも足りないから宿泊税の使途が必要だと示す必要がある。
- さらに、県へ示すために南房総市として、または安房地域として何をやっていきたいのか方向性を示す使途であるべきである。

懸念点

- ・毎年、花畑再生に税収の50%を使ってしまうと一つの地域に偏る懸念がある。

●千葉県の使途・制度設計について

税率

- ・県の一律税率150円、導入市町村は上乘せということが、今ここで議論を妨げている。

使途

- ・先日の県の説明会では全く民宿の声が反映されていない。反映されていないものに対して徴収は難しいのではないか。
- ・県の使途を見るとビジョンが大きすぎて、我々には関係ないものを感じてしまう。そうすると宿泊事業者は我々地域のために税金を取っているのに、なぜ我々に還元されないのかと疑問が残ってしまう。
- ・県の検討委員を南房総からも出した上で使途を検討したのであれば納得のいく説明が宿泊事業者にもできたはずだ。

支援金

- ・県の支援金は使途をしっかりと検討している市町村に手厚く分配するべきだ。

●税制度設計（案）について

県の動向を見据える

- ・県の支援方法及び支援金額がわからないので上乘せ金額を検討できない。県がどのような分配をするのか、県の動きを見て検討委員会を再開する方が現実的ではないか。

その間に宿泊事業者に宿泊税の理解を深めていただくよう説明する時間としたい。

- ・県の税率150円に上乗せは反対してくれという意見を聞いている。県は宿泊事業者の目線に立っていない。県の使途、制度設計が明確になるまで見送りたい。
- ・安房3市1町で足並みを揃えていこうという話があり、南房総市がここで50円上乗せを決めると、他の市町村に迷惑をかける。歩調を合わせ少し時間をおいて宿泊事業者への説明に時間を使った方がいい。

上乗せするべき

- ・上乗せ100円をしなければ、思い切ったことができないのではないかな。難しいと思うが、やらなかったら何も変わらない。やはり最低100円ぐらいは上乗せし、事業者はその効果を示すことができれば、みんな納得すると思う。
- ・アンケートの結果を見ると、お客さんはそんなに負担は感じていないが、宿泊事業者は反対が多い。時間をかけて宿泊事業者に説明したうえで100円をとってもいいのかと思う。

上乗せ反対だがやむを得ない

- ・県の状況を踏まえると上乗せしないほうがいいと思う。ただ県の支援策が交付金だとすると2,000万円しか入らないので、50円の上乗せも検討しなければならない。免税点については複雑化することもあり無い方向で検討した方がいい。
- ・必要な事業費である最低5,000万円をどのように確保するかが重要なので、県の配分で足りない場合は2階建てもやむなしかと思う。
- ・県が毎年5,000万円をくれるのであれば上乗せはしない。ただ確約がないので2階建ても検討しなければならない。

その他

- ・南房総市の宿泊事業者への説明も十分やってきたつもりだが、足りないところからすると、宿泊事業者への合意形成は安房4市町で話をしていかないとなかなか難しいと思う。
- ・スポーツ合宿や大学のサークルは連泊するので大きな額になってしまう。宿泊税が隣の館山市では150円、南房総市では250円となると、価格競争で負けてしまうことを懸念している。
- ・教育旅行を受けている民宿に関しては、これ以上の負担はかなりきつい。

3 前回は踏まえ調査・資料作成した事項

- ・ 県の支援方法がどのようなになるか動向を注視していく。
- ・ 宿泊税は宿泊事業者のメリットに繋げることが目的なので、直接的なメリットや観光客が増えるというメリットなどを明確にし、宿泊事業者へ丁寧な説明を行っていく。
- ・ 宿泊税の部分だけを切り取った使途を示すのではなく、観光全体の予算や事業を示し、それでも足りないから宿泊税の使途が必要だと示していく。

さらに、県へ示すため、南房総市または安房地域として何をどのようにやっていきたいのか方向性を示す使途を作成する。